

# 特別講演

## 「イタリアの風景美」

2019/05/18(土) 11:00-12:30

立命館大学末川記念会館第3会議室

ラファエレ・ミラーニ

(Raffaele Milani)

ボローニャ大学教育科学部正教授

美学や風景論に関して多数の著書があり、多言語にも翻訳されている。（『風景の美学』、加藤磨珠枝他訳、ブリュッケ、2014年）。ボローニャ大学「都市と風景研究所」所長、国際美学会イタリア代表、フランス、エコロジー・持続可能開発・エネルギー省の「風景の知識から景観の美化へ」プロジェクトの欧州委員会メンバーなどの要職を務める。



### 要旨

何世紀にもわたってイタリアの風景は、美的理想、美の真なる追求の対象とされてきました。とくに18世紀のグランドツアーはその卓越性を強調し、称えることによって、この考えを深めたのです。14世紀のペトルルカの「ヴァントゥー山登攀」とアンブロジーヨ・ロレンツェッティの《善政の効果》によって風景の見方に革命が起き、15世紀のヴェネツィア派やレオナルドの絵画、アンドレア・パラディオやヴィンチェンツォ・スカモッツィの建築、タッソからレオパルディの文学、また今日に至るまで新たな風景観が展開しています。講義ではこの神話、自然、文化、歴史を担ってきたイタリアの風景の記憶や芸術・環境の遺産としての重要性を考えたいと思います。

使用言語：英語 通訳(要旨のみ)

同会場で15:00から引き続きラファエレ・ミラーニ先生による「レオナルド・ダ・ヴィンチにおける芸術理論と優美」の講演（イタリア語、通訳なし）が行われます。